

アイガモ農法に興味

富岡小野小
児童32人 環境配慮の稲作学ぶ

富岡市の小野小（高長）の水田で、環境に
間久夫校長）の5年生 優しいアイガモ農法の
32人が14日、同市後賀 仕組みなどを学んだ。
の社会福祉法人「上州 アイガモは野生の力
水士舎」（金谷透理事 モトアヒルを支配させ



アイガモ農法を見学する子供たち

た一代きりの雑種。水
田の雑草や害虫を好ん
で食べるため、米の無
農薬栽培によく利用さ
れている。

施設内でアイガモ農

法の利点や歴史などに

ついて説明を受けた児

童たちは、早速、外敵

から守るためネットが

張られた10坪の水田へ

移動し、8羽のアイガ

モが雑草を食べながら

動き回る様子を間近で

見学。金谷理事長が「動

物がかかっているの

で、収穫量が不安定な

ところが課題ですが、

体に優しい、おいしい

お米が作れます」と特

徴を説明すると、興味

津々の様子で聴き入
っていた。

松井大輝君は「ア
ガモが自然に生まれ
くるわけじゃないこ
も聞いて驚いた。す
くかわいい」と話し
いた。

見学会は総合学習
一環で、昨年に引き
いて2回目。